
星の花は、夜に煌めく

翡翠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星の花は、夜に煌めく

【Nコード】

N9211Z

【作者名】

翡翠

【あらすじ】

召喚士の村の長の娘「ノナ」は、召喚獣を召喚することができても、召喚した召喚獣を元の世界に戻すことのできない、いわゆる問題のある子供だった。召喚を禁じられた少女は、自らが初めて召喚した時からずっと現世で戻れないままにいる聖竜の子「リウ」と一緒に、迫害を受けながらもけなげに仲良く暮らしていた。そんなある時、村の近くのか？ 迷いの森？ に自称吟遊詩人の不思議な少年が現れるが

プロローグ

少女は走っていた。

深い深い森の中を、一心不乱に駆けていた。

生い茂る草木や土からはみ出した根っこなどには目もくれず、ただ必死に前を向いて走っていた。

枝が服や衣服を傷つけても、ただただ全力で足を動かしていた。口から漏れる呼吸は激しく苦しそうで、肩も上下に動いている。それでも力を振り絞って腕を大きく振って、デコボコ道を全速で進んでいく。

いくら？ 迷いの森？なんて呼ばれていても、何度も何度も数えられないほど頻繁に訪れていれば、迷うどころかすべて把握できる。

毎日毎日雨が降ろうと雪が降ろうと霰が降ろうと、どんなときであつても必ず来ていた森は、自分にとってはもはや人々が彷徨ってしまう恐怖の森ではなく、温もりのある大切な場所である。

森の変化ならどんな小さなことにでも気が付ける、発見することができる。

「私の存在を許してくれるこの場所」のことなら、ここに生息している動物たちや昆虫たち、植物たちや精霊、妖精よりも早く変化に気付くことができる。とさえ少女は自負していた。

少女はそう、思っていた。

しかし、彼女は気が付けなかった。

たった一つのこと、圧倒的なことに。

だから少女は走っていた。

この森の、圧倒的な異変に向かって

それは……

「豎琴の美しい音色が聴こえることだった

少女は見た。

一生懸命走っていた足を止めて、木の陰に隠れて、？迷いの森？
の唯一開けた空間を。

そこには、銀色の髪の少年が、静かに豎琴を奏でていた。

切り株に腰を掛けて、豎琴の細い弦を指ではじいている。

ポロンと、神秘的な音を、少年は紡ぎだしていた。

あまりにも清く、澄んだ音色。

少女はあっという間に心を奪われた。

？迷いの森？に、かつてない訪問者。

それは、少女と少年の、運命の出会いでもあった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9211z/>

星の花は、夜に煌めく

2011年12月28日21時59分発行